

## 改良型救命いかだ等の搭載位置

---

# 改良型救命いかだ等の搭載位置(例示)

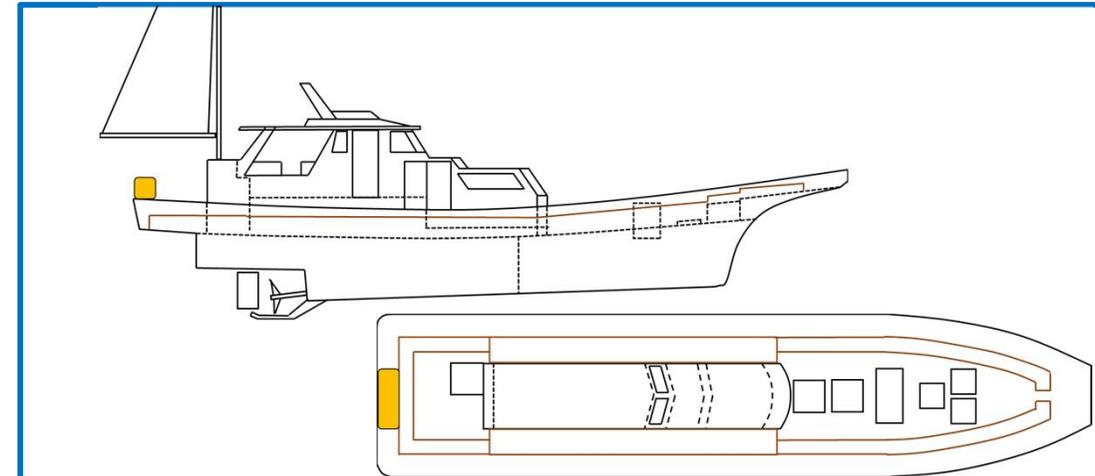
## 遊漁船の例1

○船舶の主要目(想定)

- 総トン数 約 16トン
- 航行区域 限定沿海
- 全長 約 20 m
- 定員 45人 (旅客定員 44人、船員 1人)

○50人用の内部収容型浮器(197 kg+架台 33 kg)を1個積み付ける想定

○以下、定員1名あたりの重量は70kgとして計算



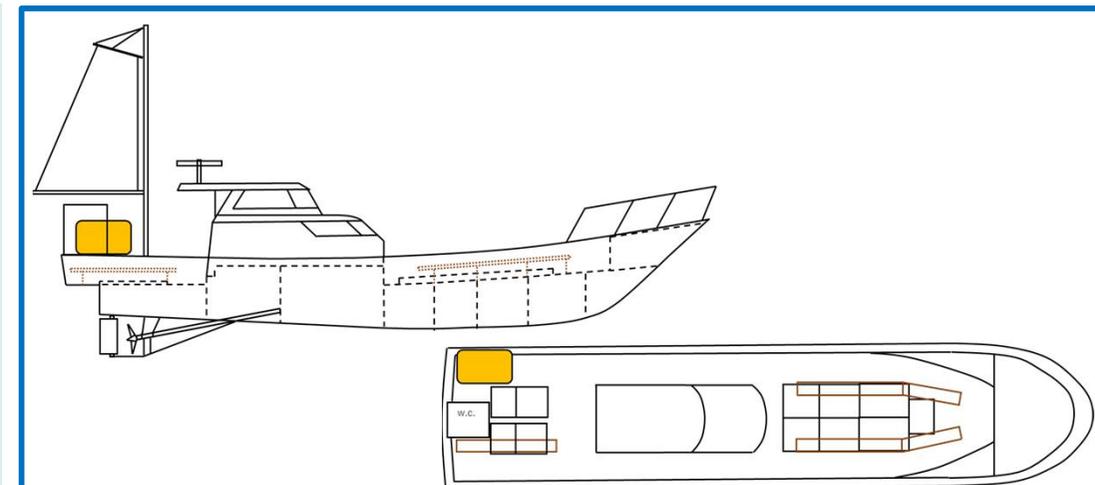
→いかだを設置することで重心位置が上がるため、いかだ重量から換算した人数以上(4人程度)\*の減少の可能性

## 遊漁船の例2

○船舶の主要目(想定)

- 総トン数 約 6トン
- 航行区域 限定沿海
- 全長 約 15 m
- 定員 27人 (旅客定員 24人、船員 3人)

○25人用の内部収容型浮器(100 kg+架台 15 kg)を1個積み付ける想定



→いかだを設置することで重心位置が上がるため、いかだ重量から換算した人数以上(2人程度)\*の減少の可能性

※十分な乾舷を有する船舶は、定員減少が不要となる場合がある。

※中央部に搭載することで中央部と船尾部の乾舷が均等に減少することで、定員減少が不要となる場合がある。

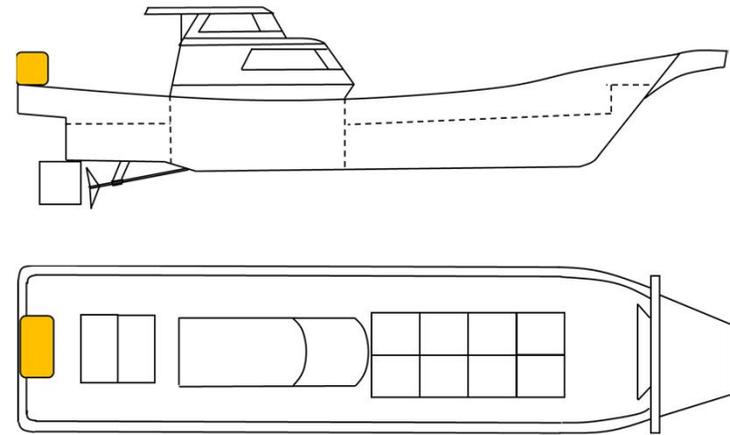
# 改良型救命いかだ等の搭載位置(例示)

## 遊漁船の例3

○船舶の主要目(想定)

- 総トン数 約4トン
- 航行区域 限定沿海
- 全長 約12m
- 定員 13人(旅客定員12人、船員1人)
- 乾舷(無人) 中央部: 0.25m、船尾部: 1.0m

○15人用の内部収容型浮器(72kg+架台 約8kg)を1個積み付ける想定



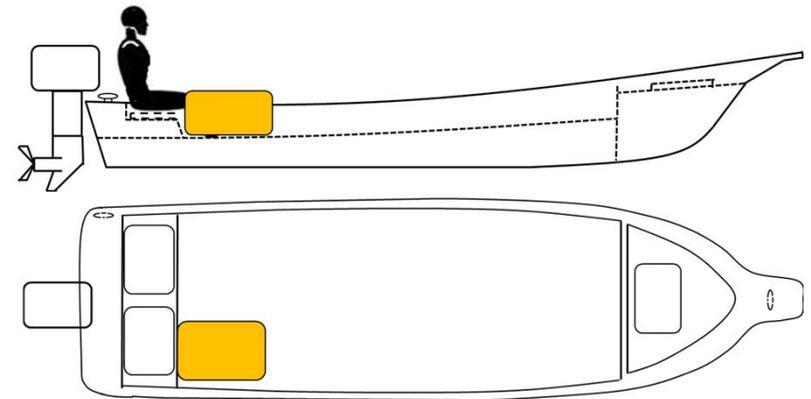
→旅客定員を12名以下とするために制限している船は、定員減とならない可能性※

## 和船の例1

○船舶の主要目(想定)

- 総トン数 約2トン
- 航行区域 限定沿海
- 全長 約8.5m
- 定員 12人(旅客定員11人、船員1人)
- 乾舷(無人) 中央部: 0.7m、船尾部: 0.5m

○15人用のバッグ式内部収容型浮器(59kg)を1個積み付ける想定



→十分な乾舷を有する場合には定員減とならない可能性

※十分な乾舷を有する船舶は、定員減少が不要となる場合がある。

※中央部に搭載することで中央部と船尾部の乾舷が均等に減少することで、定員減少が不要となる場合がある。

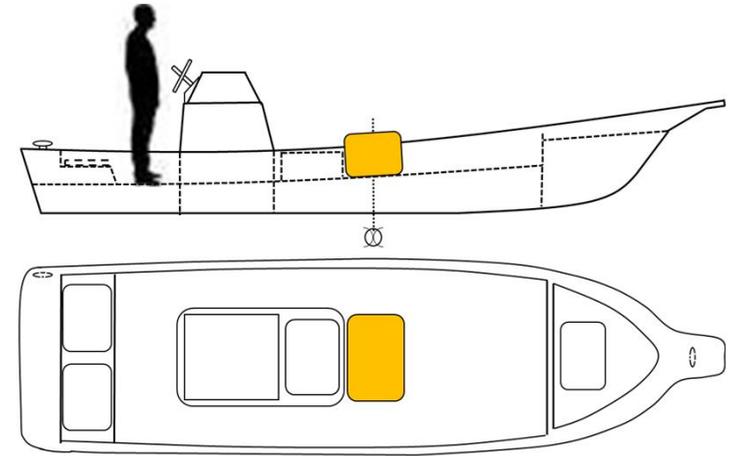
# 改良型救命いかだ等の搭載位置(例示)

## 和船の例2

○船舶の主要目(想定)

- 総トン数 約1トン
- 航行区域 限定沿海
- 全長 約6m
- 定員 6人(旅客定員5人、船員1人)
- 乾舷(無人) 中央部: 0.4m、船尾部: 0.35m

○6人用のバッグ式いかだ(40kg)を1個積み付ける想定



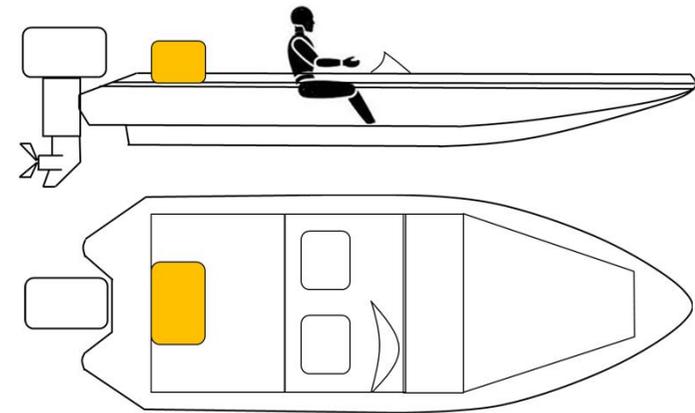
→いかだを船尾部に搭載すると定員1名減の可能性はあるが、中央部に搭載することで定員減とならない可能性※

## バスボートの例

○船舶の主要目(想定)

- 総トン数 約1トン
- 航行区域 平水
- 全長 約6m
- 定員 4人(旅客定員3人、船員1人)
- 乾舷(無人) 中央部: 0.4m、船尾部: 0.25m

○6人用のバッグ式いかだ(40kg)を1個積み付ける想定



→いかだを船尾部に搭載すると定員1名減の可能性はあるが、中央部に搭載することで定員減とならない可能性※

※十分な乾舷を有する船舶は、定員減少が不要となる場合がある。

※中央部に搭載することで中央部と船尾部の乾舷が均等に減少することで、定員減少が不要となる場合がある。

# 改良型救命いかだ等の搭載位置(例示)

: 現行の救命浮器   
  : 改良型救命いかだ等   
  : 乗艇場所   
 T : クリート(2点固定用)

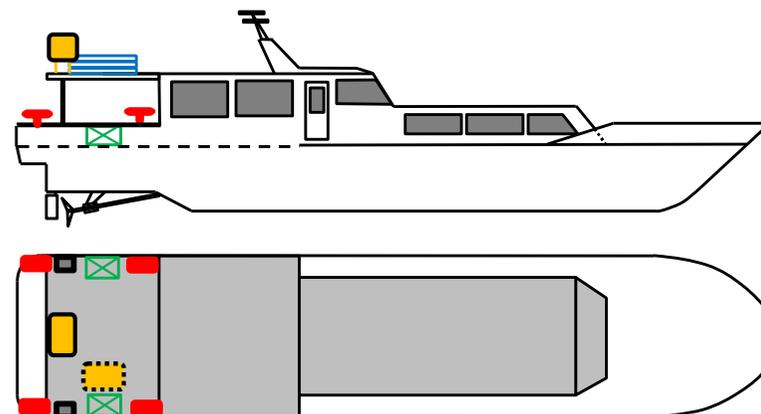
## 19トンの旅客船の例

### ○船舶の主要目(想定)

- 総トン数 約 19トン
- 航行区域 限定沿海
- 全長 約 18 m
- 定員 50人(旅客 48人、船員 2人)

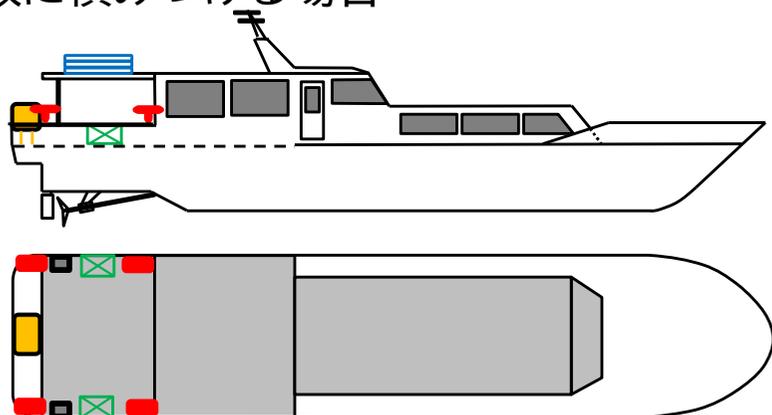
○50人用の内部収容型浮器(197 kg+架台 33 kg)を1個積み替える場合を想定

### ①甲板より上に積みつける場合(船底にバラスト搭載)



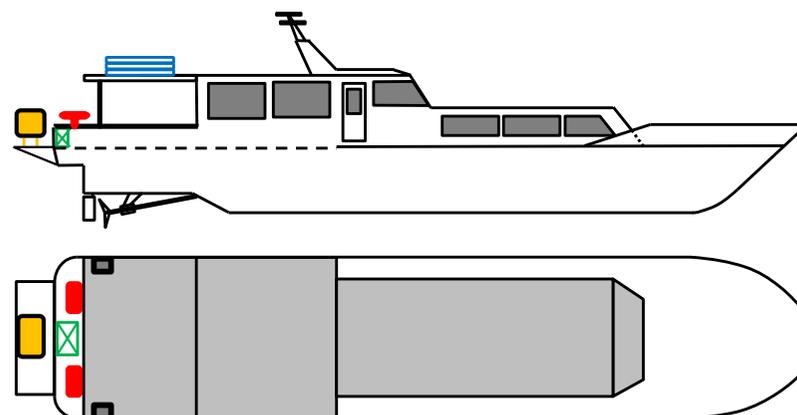
→いかだを設置することで重心位置が上がるため、いかだ重量から換算した人数以上(4人程度)\*の減少の可能性

### ②甲板に積みつける場合



→いかだを設置しても重心位置が同程度のため、いかだ重量から換算した人数分(3人程度)\*減少の可能性

### ③張り出しに積みつける場合



→いかだを設置しても重心位置が同程度のため、いかだ重量から換算した人数分(3人程度)\*減少の可能性

※上記はいかだ搭載前と重心位置、喫水を同程度で計算。十分な復原性を有する船舶は、定員減少が不要なケースもあり得る。  
 ※船尾にいかだを搭載し、トリム修正のためのバラストを追加で搭載する船舶は、さらに定員が減少するケースもある。